

国際公共政策研究センター
主任研究員 神野 雅人

アレクセイ・チェスナコフ氏週報(2/16/2011)

2010年9月のモスクワ出張時に面談し、ロシアの改革動向について詳細な説明を頂いたアレクセイ・チェスナコフ（Алексей Чеснаков）氏は、同氏が所長を務める政治動向センターのホームページに毎週「средине недели（週央にて）」と題するコラムを執筆している。これはロシアの政治動向について簡潔にまとめたうえで論評を加えたものである。この種のロシアのメディアは数少ないため今後適宜参照することとする。

人口政策のあり方

木曜日の政府幹部会議において、2025年までの国家人口政策コンセプトの実行メカニズムが検討される。この問題はロシアにおける最重要政治課題であり、幹部会議の決定は非常に重要な意味を持つ。

もちろんこの問題は数週間程度の検討で済むものではなく、十年単位で解決を図らなくてはならない問題である。2000年代に入り、90年代に国家を破滅の淵に追い込んだ壊滅的な人口減少を食い止めるため、政府は大変な努力をしてきた。経済的インセンティブの効果により出生率は急速に改善した。また、公的保健システムの領域において数多くのプロジェクトが実行されたことにより平均寿命も伸びつつある。

しかし、今日における課題はそれらの指標を改善することよりも、システム全体を作り直すことである。人口政策は移民の流入や新たな社会的テクノロジーの導入、さらに生活環境の改善や都市のエコロジーなどの幅広い領域を含めて検討されなくてはならない。この点においてロシアは現代社会から遥かに遅れている。

国民の生活の質の向上こそが人口政策の1つの重要な基盤であり、次の10年における課題であるといえる。もちろん、政策措置だけでなく道徳的インセンティブが必要なことは、ロシアの伝統でもある。人口政策においてどれだけの効果を上げる事ができるかは、政府の全てのレベルにおける活動の効果を分析する上での主要な指標となる。

未来を語る

地方選挙のキャンペーンが始まった。政党CM放送が開始され、候補者達は既に有権者に投票

を働きかけるための戸別訪問を始めている。政治家達は全力で有権者に自分達が必要だと思わせようとしている一方で、アナリスト達は彼らの選挙戦略、戦術についての最初の分析を出している。

選挙戦術について言うと、運動参加者の半数以上が明らかにまずやり方をしている。政党や候補者は市民に対しセンセーショナルな言葉や地域の発展という退屈なテーマばかり語っている。そして毎度のことながら他候補者に対する批判とネガティブキャンペーンである。そして真面目な提案やプログラムはますます少なくなる。

選挙運動は有権者の邪魔になっている。選挙民は芝居がかった選挙運動を見たいのではなく、自分達の街や地域が5年～10年後にはどうなるのかを知りたいのだ。選挙民は非常に悪い過去と、快適ではなかったが、少しはましな過去との間で選択するしかない。選挙民には将来についての選択肢がない。それは誰も将来について語ろうとせず、また語るができないからだ。その一方で市民は変わっている。投票所へ足を運ぼうという意思を持つ有権者がさらに少なくなっていく。

新中央選挙管理委員会

今週、新しい中央選挙管理委員会の組成が開始された。我が国の主要な選挙である下院選挙と大統領選挙までに残された期間が短いことに気が付かされる。中央選挙管理委員会の構成の問題は技術的なものではない。中央選挙管理委員会は我が国の政治システムにおいて特別の役割を担っている。中央選挙管理委員会は「票を数える」役割だけでなく、ロシアの選挙制度における主要な伝道者である。

2011年11月と2012年3月に有権者をいかにして投票所に引きつけるかは、中央選挙管理委員会の新メンバーにかかっている。さらに、新メンバーはロシアの選挙制度において初となる電子投票制度を導入しなくてはならない。最近のインターネットの発達からすると、5～6年後には紙ベースの投票は完全に時代遅れとなるだろう。

以上